

【漢検漢字文化研究奨励賞】佳作

『大漢和辞典』から考察する「譌字」

「譌字」と「誤字」の違いに着目して―

茨城大学人文学部人文コミュニケーション学科 文芸・思想コース四年 大和田 凌子

一 はじめに

「衆」という漢字は、例えば「衆議院」といった熟語で新聞やテレビなどを通じて日常的に目にする字であるが、『大漢和辞典』¹⁾(以下、『大漢和』)の中では次のように記載されている。

【衆】 シュウ 眾 (8-23321) の譌字。

このように、『大漢和』において「衆」は「眾」の譌字とされている。そこで、譌字の意味を『日本国語大辞典』第二版²⁾(以下『日国大』)と『大漢和』で確認すると次のように記載されている。

『日国大』

かーじ ジクッ 【訛字】『名』字画、用法などを誤っている文字。誤字。(用例略)

『大漢和』

【譌字】ジクッ うそ字。誤字。(用例略)

『日国大』『大漢和』とも、譌字を説明する際に「誤字」という言葉を用いているので、「誤字」の項目について以下に引用する。

『大漢和』

【誤字】ジゴ あやまつた字。間違ひの文字。

『日国大』

こーじ 【誤字】『名』あやまつた形、用法の文字。まちがって書かれた字。(用例略)

これらの辞書の記述では、ほぼ「譌字」を「誤字」の意と解している。仮にこれらの記述に基づいて「譌字」を「誤字」と同義と見なし、『大漢和』の「衆」の記載にあてはめるとすると、「衆」は誤字であり「眾」が本来の字体であるということになる。

しかし、「衆」の字体は少なくとも現代の日本において日常的に用いられており、「眾」に直されることはない。このように考えていくと、「譌字」を「誤字」と同義と捉えるのは果たして妥当であるのか疑問に感じられる。その他、『大漢和』では「争」「充」「冴」「没」「異」も「譌字」とされているが、これらはいずれも現代の日本で用いられている字体である。よって本稿では、『大漢和』の「譌字」の性質を明らかにし、「譌字」とは何であるか、またどう扱うべきかについて考察する。

二 先行研究における譌字

譌字の意味やその判断基準を深く考察した先行研究はほとんど見当たらないが、譌字について言及している論文や文献はいくつか存在する。

まず、譌字を取り上げた先行研究として、池田証壽(一九九九)が挙げられる。この論文で池田氏は文字コード問題を取り上げて述べており、『大漢和』に記載のある全ての漢字を例外なく文字コードに入れることは適切ではないと主張している。そしてその

理由を、『大漢和』には譌字が存在するからであると述べている。氏によれば、『大漢和』巻八で譌字とされている漢字が何字存在するか調査したところ、巻八の五四二九字のうち八五字が譌字であるということであった。

また、氏は譌字に対して次のように述べている。

譌字は誤字のことであるから、これを、JIS漢字のような符号化文字集合へ入れるのは適切ではない。誤字であるから、日本語の文章で使うことが出来ない。

このように池田氏は、『大漢和』に限らず一般的な意味において、譌字とは誤字のことであるとしている。さらに、氏は次のようにも述べている。

一般に字書は規範的性格が強いと言われる。つまり、正しい言葉、正しい漢字の字体を示すことが字書の目的である。譌字や誤字を掲げるのは、そうした漢字を使うべきではないという意味で掲げているのである。(中略) 諸橋大漢和で譌字を掲げるのは、そうした漢字を誤って使わないようにするのが本来の趣旨である。

この記述では、字書内に誤字や譌字が記載されている理由について述べている。しかし、「衆」のように、『大漢和』では譌字とされているが、現在の日本で使われている漢字については想定していないように思われる。

阿辻哲次(二〇〇一)は、譌字に関して詳しく論述しているわけではないが、誤字とは異体字分類の一種で、漢字の構造や構成要素の組合わせなどが学問的に間違っているものであるとし、誤字は、嘘字や譌字とも呼ばれることがあると述べている。

小野芳彦(二〇一三)は譌字の定義について、「譌字の定義は「誤字」、つまり、書写者が書こうと意図した文字ではないものを読者が認識するような字形ということである。」と述べているが、「譌字」に関してそれ以上の詳しい記載はされていない。

このように、譌字について何らかの言及をしている研究はいくつか存在するものの、ほぼ譌字は誤字のことであるということだけを述べるだけに留まり、譌字について詳しい分析を試みようとした研究はほとんど見られない。

三 「譌」や「訛」の関係について

一般に「譌」は「訛」の異体字であり、それゆえ「譌字」は「訛字」とも書かれるが、『大漢和』では「譌」と「訛」を異体字として扱っていない。以下、その点について、『大漢和』と現代日本の漢和辞書において「譌」と「訛」がどのような関係にあるのかについて見ていく。

まずは『大漢和』の「譌」と「訛」の記載をそれぞれ挙げる。(なお、出典は省略する。)

【譌】グーワグーワゲギ價クーワ

①①いつはりのことば。訛に同じ。②かはる。③さめる。④うごく。⑤あやしい。

⑥いつはる。いつはり。⑦あやしいことば。⑧通じて叱に作る。

②かはる。譚に同じ。

③さめる。又、いつはる。詭に同じ。

【訛】グーワガ價クーワ

①①いつはる。②いつはり。うそ。③あやまる。④あやまり。まちがひ。⑤文字

のあやまり。⑥なまる。⑦なまり。⑧たがふ。⑨あやしいひふらし。⑩かへる。かほる。⑪うごく。⑫又、譌・叱に作る。

□動く。

右記の『大漢和』の記載を見ると、「譌」と「訛」は意味が重なる部分はあるものの、字義が完全に一致しているわけではない。異体字を漢字の三つの構成要素のうち音と義が完全に一致するものとするなら、『大漢和』は「譌」と「訛」を異体字として捉えていないことになる。

次に、現代の中型漢和辞書で「譌」と「訛」がどのように記載されているかを見てみる。『新版漢語林』第二版（大修館書店、二〇〇一）³・『学研新漢和大辞典』（学習研究社、二〇〇五）⁴・『漢字典』第二版（旺文社、二〇〇六）⁵・『新明解現代漢和辞典』（三省堂、二〇一三）⁶の四つの漢和辞典において、「譌」と「訛」は異体字とされていた。

これらの漢和辞典の記載からは、「訛」と「譌」はほぼ異体字の関係にあると考えることができ、現代の日本においては一般的に「譌」は「訛」の異体字とされていると見てよからう。また、二〇〇〇年に国語審議会が答申した「表外漢字字体表」において、「訛」は印刷標準字体とされているが、「譌」は一般書における使用頻度が低かったものと見られ、記載がされていない。

これらを踏まえると、現代の日本において「譌字」は「訛字」と表記する方が一般的であると考えられるが、本論文では『大漢和』で「譌字」と表記されていることを重視し、「譌」の字体を使用することにする。

四 本研究の目的

本研究の目的は二つある。一つ目は、『大漢和』で「譌字」とされている字がどのようなものであるのか、その性質を明らかにすることである。池田（一九九九）は、『大漢和』巻八の譌字について調査しているが、それ以外の巻については調査されていない。よって、本研究の調査では『大漢和』全巻から譌字を取り出すことにする。そして、その上で『大漢和』の「譌字」の性質について考察する。

二つ目は、『大漢和』に限らず「譌字」という概念がどのような性格を持つものであるかについて考察することである。筆者は、「譌字」と「誤字」について、「あやまった字」という点で共通はしているものの、「譌字」をそのまま「誤字」と同義と捉えるのは適切ではないと考えるため、その本来的な意味について「誤字」との違いを踏まえながら考察する。

五 『大漢和』の「譌字」

『大漢和』で「譌字」とされている漢字には、一体どのような性質があるのだろうか。本項では主に「譌字」の出典に注目して、『大漢和』の「譌字」の性質を明らかにする。さらに、『大漢和』で「誤字」と記載されている漢字も取り上げ、「譌字」との違いについて考察する。

五―「譌字」の字数

「譌字」の出典を調査するために、まず『大漢和』で「譌字」とされている見出し字を全て取り上げ、『大漢和』における「譌字」の字数を把握する必要がある。そこで、筆者自身の目で『大漢和』の全頁を見て、「譌字」という記載を探していった。(なお、目視による調査のため、見落としのある可能性もある。)

以下に、どのような記載を「譌字」として数えたか、例を挙げつつ提示する。また、記載の形態を左記の三つに分けた。各分類で提示されている図版は『大漢和』のものである。

ア 「ゝの譌字」という記載のみの字 (八一〇字)

図版1 **【洗】** 17737 セフ 洗(8-17530)の譌字。(字彙補)洗、洗字之譌。

イ 「ゝの譌字」という記載とは別に訓義等の記載がある字 (二五四字)

図版2 **【糾】** 1946 キウ (字彙)居尤切 因

●罪を白状させる。訊問する。(字彙)糾、出罪也。●糾(8-27227)の譌字。(正字通)糾、糾字之譌。

図版3 **【玖】** 20881 キウ (川篇)音久

黒い玉のさま。玖(7-20846)の譌字。(川篇)玖、黒玉貌。(中華大字典)玖、按、玖字之譌。

ウ 譌字であると断定されていない字 (一字)

図版4 **【恥】** 29007 音義未詳 或は耶(9-29008)の譌字か。(字彙補)恥、音義未詳。出釋藏、恐是耶字之譌。

ア(ゝの譌字)という記載のみの字)は、図版1のように「ある漢字」の譌字」とだけ記載されているものであるが、このような記載の字が最も多い。

イ(ゝの譌字)という記載とは別に訓義等の記載がある字)は、図版2のように「ゝの譌字」という記載の他に訓義等の記載があるものである。また、図版3のように、一つの項目に「ゝの譌字」という記載と訓義等が記載されているものも存在する。

ウ(譌字であると断定されていない字)は、図版4の一字のみであった。ここには「或は(中略)譌字か」と書かれているが、出典となっている『字彙補』の記載を見ると、「恐是耶字之譌」とある。従って、『大漢和』の「或は(中略)譌字か」という記載は、『字彙補』の「恐」という記述から来ているものと考えられる。

右記のようなものを『大漢和』の「譌字」として数えた結果、全部で九六五字の「譌字」が確認された。

五―『大漢和』の「譌字」の出典

次に、『大漢和』に見られる九六五字の「譌字」の出典について見ていく。

ただし、基本的には出典の中に「譌」という記載があるが、中にはそうではない場合

もあつたため、「譌字」の出典の記載をまず以下のように分類した。

- A 出典に「譌」という記載がある漢字
- B 出典に「譌」という記載がない漢字
- C 出典なし

各分類について『大漢和』の図版を提示しながら以下に説明する。

A 出典に「譌」という記載がある漢字(九一六字)

図版5 **【𠄎】** 72 クワ 𠄎(9-5692)の譌字。(正字通)牛、干字之譌。

図版6 **【𠄎】** 270 セン 𠄎(1-262)の𠄎の譌字。(康熙字典)𠄎、按即𠄎字之譌。
(篇海類編)𠄎、思椽切、𠄎也。

図版7 **【𠄎】** 25245 リツ 𠄎(9-27095)の譌字。(集韻)𠄎、糯米、或从米。(正字通)𠄎、𠄎字之譌。

図版8 **【𠄎】** 5141 ケイ 𠄎(9-5030)の譌字。(正字通)𠄎、按即𠄎字之譌。
型又篇海譌作𠄎。(康熙字典)𠄎、按、即𠄎字之譌。

Aは、図版5～8のように、いずれかの出典の記載に「譌」という文字が見られるものである。

図版5は出典が『正字通』のみであるため、図版5の漢字は『正字通』の記載をもとに「譌字」とされているものと見られる。図版6・7は出典が二つずつ挙げられているが、片方の出典にしか「譌」という記載が見られない。このように、大半は一つの出典にしか「譌」と記されておらず、挙げられている全ての出典に「譌」という記載があるのは図版8の一字のみであった。

B 出典に「譌」という記載がない漢字(四二一字)

図版9 **【𠄎】** 9209 エイ 𠄎(4-9211)の譌字。(康熙字典)𠄎、按、説文本作𠄎。

図版10 **【𠄎】** 41880 シツ 𠄎(12-44906)の譌字。(正字通)𠄎、省作𠄎、非。

図版11 **【𠄎】** 25480 ハツ 𠄎(9-29337)の譌字。(淮南子、陰形訓)𠄎、海人。(集解)兪樾云、𠄎字、𠄎字之誤。

図版12 **【𠄎】** 1402 リク 𠄎(4-7867)の譌字。(字彙)𠄎、補𠄎同、𠄎、見楊氏撰字韻寶。(中華大字典)𠄎、按説文𠄎部、𠄎、補文作𠄎、此作𠄎、非。

Bは、出典の記載に「譌」という文字が見られないものである。

図版11は『淮南子』と『集解』が出典として示されているが、『集解』とは『淮南子』の注釈書である『淮南鴻烈集解』(一九二三序刊)のことであろう。台湾商務印書館の影印(一九七四)によると、その四卷十六丁表に「兪樾云下文又曰凡𠄎者生於庶人兩𠄎字皆𠄎字之誤」と記されているため、省略はあるものの、『淮南鴻烈集解』からの引用

と見られる。また、『集解』には「譌」と記されており、「譌」と記されていないにもか
 かわらず「譌字」とされている。このような「譌字」は八字ある(後述)。図版12は
 『字彙補』と『中華大字典』が出典として挙げられているが、どちらも「譌」とは書か
 れていない。このように、いずれの出典にも「譌」と書かれていないものがBに当ては
 まるが、九二三字あった分類Aに比べてその数は三八字と圧倒的に少ない。

C 出典なし(七字)

図版13

【**𠄎**】
1615

口 𠄎(9-1613)6譌字。

Cは、図版13のように出典が記載されていないものである。この場合は、何故「譌
 字」とされているのか、出典から判断することができない。(なお、この「𠄎」は「さ
 える」と訓まれる字であるが、「衆」と同様、よく使用されている字である。)

A～Cの字数をまとめたものを表1に示す。

表1 出典の記載の分類

分類	字数
A	916
B	42
C	7
合計	965

出典の記載の分類	
A	出典に「譌」という記載がある漢字
B	出典に「譌」という記載がない漢字
C	出典なし

表1から、『大漢和』の「譌字」は出典に「譌」という記載のある場合が大半である
 ことが分かる。これにより、『大漢和』では何らかの出典に「譌」とあれば、その漢字
 を「譌字」とする編集方針が採られていたものと見られる。

一方、B(出典に「譌」という記載がない漢字)に分類されている漢字は、右記のよ
 うな方針によって「譌字」とされたのではないことになるが、その出典の記載の在り方
 から、いくつかの類型に分けることが出来る(後述)。

五―三 出典ごとの「譌字」の字数

出典となっている資料名と出典ごとの字数をまとめた表を、以下の表2と表3に示
 す。字数のうち「譌」ありの欄は、出典に「譌」と記されている記載が引用されている
 字数で、「譌」なしの欄は出典に「譌」と記されていない記載が引用されている字数で
 ある。また、出典として使用されている資料を大まかな時代順に並べたものが表2であ
 る。時代が特定できなかった資料や正式名称が判別出来なかった資料は表3に示してい
 る。

表2から、字書以外の資料では「譌」と記されていないことが多いと分かる。それは字書以外の資料では主に用例として引用されており、字の解説が記載されていないから

表3 出典ごとの字数（時代・正式名称不明）

字典・資料名	字数	
	「譌」あり	「譌」なし
篇韻	2	1
海篇	1	0
古文苑	0	1
校勘記（易経）	0	1
校勘記（詩経）	0	2
川篇	2	2
搜真玉鏡	2	0
餘文	1	0
計	8	7

字鑑	0	1
字彙	29	4
字彙補	138	7
説文長箋	1	0
説文解字（段玉裁注）	0	3
正字通	413	10
荆溪疏	1	0
讀史方輿紀要	1	0
康熙字典	214	8
集韻考正	7	1
説文通訓定聲	0	1
廣雅疏證	6	0
紀昀等校	2	0
方言疏證	2	0
韓非子集解	0	1
讀書雜誌	1	0
淮南鴻烈集解	0	2
中華大字典	46	7
辭海	1	0
管子纂註	1	0
計	909	64

表2 出典ごとの字数（時代順）

字典・資料名	字数	
	「譌」あり	「譌」なし
管子	0	1
詩経	0	1
王孫賦	0	1
水経	0	1
呂氏春秋	0	1
爾雅	0	1
方言	0	1
淮南子	0	2
韓非子	0	1
顔氏家訓	0	1
玉篇	1	0
五経文字	1	0
龍龕手鑑	12	0
廣韻	0	1
爾雅註疏	0	1
集韻	13	2
五音集韻	0	1
五音篇海	6	0
篇海	10	0
篇海類篇	3	2
列子虞齋口義	0	1

である。

また、表2と表3から、『大漢和』では『正字通』が「譌字」の出典として最多であることが分かる。その原因は、『正字通』の編纂方針が『字彙』の誤りを訂正するものであるということと関係があるように思われる。『字彙』に掲載されていた字体に対して批判意識を持っていたために、「この字体は誤りである（譌である）」という捉え方が様々な字体に対してなされているのであろう。

五―四 『大漢和』で出典として引用されている記載の原典確認

表2・表3は、『大漢和』に記載されている出典の引用をもとに出典ごとの字数を数えており、出典として書かれている資料を実際に見た上で集計した表ではない。そこで、出典として用いられている『字彙』『字彙補』『正字通』『康熙字典』について実際の記載を確認した。

『康熙字典』の原典を確認した際に、『大漢和』では『康熙字典』からの引用とされているものの、実際には『正字通』など別の資料から引用したとされる記載が見られた。このようなものが多数存在する場合、表2・3の体裁も変更しなければならぬ可能性がある。そのため、「譌字」の出典として多く用いられている『字彙』『字彙補』『正字通』『康熙字典』について原典確認を行うことにした。確認に使用した影印は以下の通りである。

『字彙 字彙補』上海辞書出版社影印、一九九一

『正字通』国際文化出版公司影印、一九九六

渡部温『標注訂正 康熙字典』講談社影印、一九七七

『字彙』『字彙補』『正字通』『康熙字典』が出典として用いられている漢字は合わせて八二三字あるが、右記の影印を用いて原典確認を行ったところ、『大漢和』で引用されている記載が原典と異なるものが五十一字存在した。五十一字のうち、『字彙』で二字、『字彙補』で四五字、『正字通』で二字、『康熙字典』で二字が『大漢和』の引用文との相違が見られた。

五―四―一 『字彙』『字彙補』『正字通』の原典確認

『字彙』『字彙補』『正字通』からの引用とされつつも、『大漢和』の引用文と原典の本文とが異なる場合、その字を『康熙字典』で調べると、『康熙字典』の本文と『大漢和』の引用文とで一致することが多かった。

例えば図版14は、『大漢和』の記載によると、『字彙』に「付字之譌」とあるとされているが、実際に『字彙』で図版14の字を調べると「直呂切音付見釋典」と記されており（図版15）、『大漢和』の引用文とは異なる。

・『大漢和』

図版14 **付** 612 付(1-496)の譌字。(字彙)

ナヨ 付 付字之譌。

・『字彙』

図版15 侍直呂切音
佇見釋典

しかし、図版14の字を『康熙字典』で調べると、『字彙』からの引用として「佇字之譌」（図版16）と記されており、これとは一致していることが分かる。

・『康熙字典』

図版16 侍字彙
字之譌

また、図版17は『大漢和』の引用部分に「紙字之譌」と記されているが、『字彙補』で確認すると、図版18の通り「疑即紙字之誤」と記されている（図版18）。これも、図版17の字を『康熙字典』で調べると「疑即紙字之譌」（図版19）と記載されている。

・『大漢和』

図版17 紙27316
ハ 紙(9-2741)の譌字。〔字彙
補〕紙、紙字之譌。

・『字彙補』

図版18 紙疋夫切音擺麻炭也
○疑即紙字之誤

・『康熙字典』

図版19 紙字彙補
紙
字之譌

このように、『康熙字典』から孫引きしたと思われる例が二八字見られた。

しかし、中には原典と相違があるものの、『康熙字典』からの孫引きではない例もあった。図版20の字については、『字彙補』（図版21）『康熙字典』（図版22）ともに「勃字之誤」と記しており、このような場合は、『大漢和』の編者が独自に『字彙補』の記載を「勃字之譌」と改変した可能性が考えられる。

・『大漢和』

図版20 乳6971
ボツ 勃(9-2351)の譌字。〔字彙
補〕乳、勃字之譌。

・『字彙補』

図版21 乳此字出
釋典疑(行)是勃字
改之誤

・『康熙字典』

図版22 乳字彙補
勃
字之誤

これらのように、原典からではなく、『康熙字典』から孫引きしたり、原文を改変したりして引用していると思われる例の存在することが判明したが、そのようなものは全体からすればごく少数である。本研究は、あくまで『大漢和』の出典部分の記載に「譌」とあるかないかを見ることよって『大漢和』の「譌字」の性質を明らかにしようとするものであるため、原典の記載との相違は考慮しないことにする。よって、『大漢和』の引用文と原典の記載との相違が見られる五十一字を表2・3の数値からは敢え

て除かないことにする。

また、『正字通』からの引用文について原典確認を行った際、『大漢和』の引用文に「譌」という記載はなかったが、『正字通』には「亅字之譌」と記されているものが見つかった。そのようなものは二字見られたが、左にその一例を示す。

・『大漢和』

図版23 **亅** 1416 シラ 亅(1416)の譌字。(正字通)
亅六書有人無亅、舊註亅

同亅、非。

・『正字通』

図版24

亅 亅(行)
改

之譌按說文古文集作亅得註移說文亅訓于此入部人註與
人同兩誤玉篇从說文作亅六書統曰亅譌从入一 同文舉要(改) 亦非

図版24の『正字通』には、最初のところに「亅字之譌(以下略)」という記載が見られる。このように、『正字通』で「亅字之譌」と記されていたため、『大漢和』では「亅」を「譌字」としたものと見られる。

図版23のように『大漢和』の出典引用文に「譌」という記載が無い場合は、表1においてB(出典に「譌」という記載がない漢字)に分類した。実際には原典である『正字通』に「亅字之譌」と記されていたということになるが、前述の通り、本研究では『大漢和』に記載してあることに着目して研究を行うため、表1の数値も敢えて変更せず議論を進める。

五―四―二 『康熙字典』の原典確認

『字彙』『字彙補』『正字通』と同様に『康熙字典』も原典確認を行ったが、『康熙字典』からの引用については、原典の記載と相違があるか否かのみではなく、また別の観点からも確認を行う必要がある。すなわち、『康熙字典』には様々な字典が出典として挙げられているため、『大漢和』で『康熙字典』が出典として掲げられている場合、それを『康熙字典』独自の記載であるとみなしてよいのかという観点である。

例えば、図版25には「亅、按、即僞字之譌」と記してあるが、『大漢和』が引用している『康熙字典』の記載はこのように「按」^レという書き出しであることが多い。

・『大漢和』

図版25 **亅** 993 亅(1-971)の譌字。(康熙字典)
僞(僞、按、即僞字之譌)

この「亅」を『康熙字典』で確認すると、『字彙補』の引用の後に、「按即僞字之譌」という記載が見られることが判明する。

・『康熙字典』

図版26 **亅** 字彙補 于湖切音遙喜
也。○按即僞字之譌。

このように記載されている場合は、引用ではなく『康熙字典』独自の解釈であると考えられるため、「亅」の出典は『康熙字典』であると見なしてよい。

しかし、「按」 という書き出しではない『康熙字典』の引用については、他の資料からの引用とされている場合もあった。

例えば、**図版27**では『康熙字典』からの引用の中に「正字通」と書かれている。実際に『康熙字典』の記載（**図版28**）を見ると、『正字通』からの引用とされる記載が見られ、この部分に関しては「按」 という書き出しの記載とは異なり、『康熙字典』独自の記載ではない。

・『大漢和』

図版27 **潜** 18543 セン 潜(一18240)の譌字。(康熙字典)潜、正字通、潜字、書作潜。

・『康熙字典』

図版28 **潜** **正字通**潜字。書作潜。○按說文从水替聲。替字上从二无自。應以潜字爲正。今依說文將音義俱移入潜。改。不備載。字下此。

そのような『大漢和』の「譌字」は十三字存在し、表2における『康熙字典』の二二三字には、これら十三字も含まれている。

しかし、『大漢和』における『康熙字典』の引用が必ずしも原典と一致するとは限らず、「潜」について実際に『正字通』の記載を確認したところ、『康熙字典』で引用されている「潜字。書作潜」という記載は見られなかった（**図版29**）。

・『正字通』

図版29 **潜** 才延切。漸平聲。漢別水名。爾雅漢爲潜。書禹貢。沱潜。既道又水伏流。又涉水。又藏也。易陽氣潜藏。又姓。宋改。行。

安撫使潜説友明永樂中御史潜溟又魯地名春伙公會戎于潜又與楷通積柴水中使魚隱藏因取之詩周頌潜有多魚又侵韻音潜陸機赴洛詩無迹有所匿寂寞啓必沈肆目渺不及緬狀若雙潜○从覈从日象作潜俗从二无二无从口从自括改。行。

非售本十二画譌作潜又非妄从手持水滅火作𣶒非潜本義今刪

また、**図版30**の出典部分の記載は「正字通」と書かれていないが、実際に『康熙字典』で確認すると、**図版31**の通り、これも『正字通』からの引用であるとされている。ここでも『正字通』の記載を確認したところ、『康熙字典』で引用されている「𣶒字之譌」という記載は見られなかった（**図版32**）。

・『大漢和』

図版30 **𣶒** 45565 ソウ 𣶒(19-45563)の譌字。(康熙字典)𣶒、𣶒字之譌。

・『康熙字典』

図版31 **𣶒** **正字通**𣶒字之譌。

・『正字通』

図版32 **𣶒** 俗字舊註𣶒𣶒於同變非

図版29・32で確認した通り、『康熙字典』（図版28・31）における『正字通』の引用文が原典と異なっていることもあり、『康熙字典』では厳密な引用がなされているとは言い難い。しかし、『大漢和』を研究対象とする本研究においてそのような事実は問題ではなく、むしろ、図版27・30において、『大漢和』が『康熙字典』の記載を出典として「譌字」と判断したと見られる点に着目すべきである。図版27には「譌」と記されていないが、『大漢和』における「譌字」の出典の引用文に見られる傾向から考えると、おそらく「書作潛」という記載から「譌字」という判断をしたと思われる（後述）。図版30は『康熙字典』の本文には「譌」と記されているため、この記載から「譌字」と判断したのだと考えられる。このように、『大漢和』の「譌字」の出典として『康熙字典』が記されている場合は、『康熙字典』の本文を参照して「譌字」と判断していることが確認できたため、表2における数値も変更の必要はないと考える。

五―五 『大漢和』における「譌字」と「誤字」の違い

これまで『大漢和』の「譌字」について分析を行ってきたが、これ以外にも『大漢和』には、「譌字」ではなく「誤字」とされている字が存在する。「譌字」も「誤字」も基本的には何らかの「誤り」を指摘する言葉であると考えられるが、そのように記載が分けられているのは、「譌字」と「誤字」に何らかの違いがあるためであろうか。本項ではこの点について、「譌字」や「誤字」の出典の記載から考察していく。

五―五―一 出典に「譌」と書かれていない「譌字」

『大漢和』で「譌字」とされている漢字の大半が、何らかの出典に「譌」と記されていたが、中にはそうではない「譌字」もあった。そのような「譌字」は『大漢和』が独自に「譌字」であると判断しているということである。では、何を根拠にして「譌字」という記載を施したのであろうか。その点について、「譌字」の典拠の記載から考察する。『大漢和』の「譌字」の出典の記載における分類A～Cのうち、分類B（出典に「譌」という記載がない漢字）の四二字の「譌字」について、以下の五つに分類した。

- b 1 「〜誤」という記載がある譌字
- b 2 「〜非」という記載がある譌字
- b 3 「作〜」という記載がある譌字
- b 4 「疑」という記載がある譌字
- b 5 その他

以下に各分類がどのようなものであるか、『大漢和』の図版を提示しながら説明する。

b 1 「〜誤」という記載がある譌字（十字）

図版33

【目次】35568
テッ 誤(10-35567)の譌字。(中華
大字典) 誤、按、字从工誤

當、从工土。

【鵝】 47053 ライ (集韻)郎才切 鴈

図版 34 鵝鳩は、たか。鵝(12-47288)の譌字。〔爾雅、釋鳥〕鵝、鵝鳩。〔注〕鵝、當爲鵝、字之誤耳、左傳作鵝鳩、是也。〔集韻〕鵝、鳥名、字林、鵝鳩、鵝也、郭璞讀「爾雅」、以爲「鵝字」之誤。

図版 33・34 のように、出典に「ゝ誤」と書かれている場合にも「譌字」とされている字があるが、その場合、図版 33・34 のように字体の誤りを指摘している。

b2 「ゝ非」という記載がある譌字(十一字)

図版 35 【霽】 42461 シニウ 兼(12-42445)の譌字。〔正字通〕霽、从衆、本作霽、十一畫、舊本作霽、非。

図版 36 【鄉】 39581 ケイ 鄉(11-39571)の譌字。〔中華大字典〕鄉、或作鄉、非。

出典に「ゝ非」という記載がある「譌字」は、同じ文中にある「作ゝ」という関係を否定するものが多い。その場合、当該の字のように書くことを認めていないものと考えられるので、これを「譌字」としているのはある程度理解できる。

b3 「作ゝ」という記載がある譌字(十一字)

図版 37 【𦉳】 21875 テン 𦉳(7-21885)の譌字。〔中華大字典〕𦉳、類篇、作𦉳。

【鴟】 46947 ケキ (韻會)局闌切 錫
キヤク ㄏ ㄑ chʻ

図版 38 ●もず。伯勞鳥。伯鷦。伯趙。姑惡。苦吻鳥。〔詩、幽風、七月〕七月鳴鷦。〔傳〕鷦、伯勞也。●鷦(12-47144)の譌字。〔詩、幽風、七月、校勘記〕唐石經、鷦作鷦、案、唐石經是也、五經文字云、與「說文」合、可證也。

「作ゝ」という記載は、そのような字で書かれることもあるという意味と見られる。その場合、必ずしも字体の誤りを指摘するものではないと考えられるので、それを「譌字」とした『大漢和』の判断には疑問が残る。

b4 「疑」という記載がある譌字(六字)

図版 39 【崱】 8262 ロウ 崱(4-8598)の譌字。〔古文苑〕崱、疑是龍字。〔注〕崱、疑是龍字。

図版 40 【宥】 25537 フン 宥(8-17178)の譌字。〔正聲應言〕魏、今孟卯制、韓宥安邑之地、以與・秦土、〔校正〕宥、疑即份之異文、字書不載。

図版 39・40 ともに、「疑」と書かれているのは注釈書等の方の出典である。ここで使われている「疑」とは、その文章で使われた漢字に対して「おそらくゝの字のことであろう」と述べているものと考えられる。この場合も b3 同様、明確に字体の誤りを指摘しているものではないため、「譌字」とするのはやや行き過ぎた判断のように思われる。

b 5 その他 (三字)

図版 41

【嫌】 9118

嫌 (4-9016) の譌字。〔中華
大字典〕嫌、嫌或字。

図版 42

【裁】 23990

與此相類。

裁 (7-19385) の譌字。〔正字
通〕裁、施云、説文古文熾字、

【飢】 2555

飢 (篇海) 於據切

圖

図版 43

① あく。〔篇海〕餽、飽也、祭祀曰厭餽。

② 餽 (2-2560) の譌字。餽 (2-2556) の

を見よ。〔正字通〕餽、俗餽字。

b 5 は一例ずつしか見られなかった記載である。図版 41 は出典において「或字」と記載されているものを「譌字」としている例である。図版 42 は『正字通』の引用部分を「裁、施云、説文古文の熾字、此と相類す」と読むことができるが、この記載からは「譌字」と判断する根拠が読み取れない。図版 43 は出典部分に「俗」という字が使われており、むしろ「俗字」とすべき字であるように思われる。

このように、「譌」と記されていない出典の記載を見ていくと、b 5 のような例外的なものを除いて、大きく二種類に分けられる。その一つは「非」や「誤」のように、その字体が認められないと記載しているものであり (b 1、b 2)、もう一つは「作」や「疑」と書かれ、字体の是非の判断が明確には示されていないものである (b 3、b 4)。これらは『大漢和』独自の判断と言えるが、特に b 3 と b 4 は「譌字」とした判断の根拠が明確でなく、不自然に感じる。

また、b 1 では、出典に「誤」と書かれている漢字に対して、『大漢和』が「誤字」ではなく「譌字」と記しているが、このあたりからは、『大漢和』が「誤字」と「譌字」の関係をどのように捉えていたのか疑問に感じる。よって、次に『大漢和』の「誤字」について見ていく。

五―五―二 『大漢和』の「誤字」

『大漢和』の「譌字」と「誤字」の違いを探るために、ここでは『大漢和』で「誤字」と記載されている字を見ていく。「譌字」と同様、「誤字」も目視により『大漢和』から探し出した。

その結果、「譌字」は九六五字確認されたのに対し、「誤字」は全部で十八字しか見当たらなかった。

「誤字」についても、「譌字」と同じように、出典の記載を見ていった。すると、「誤字」も出典の記載に「誤」とあることの方が多かったが、そうでない場合もあった。そこで、「誤字」の出典について以下の二つに分類した。

- I 出典に「誤」という記載がある漢字
 - II 出典に「誤」という記載がない漢字
- 以下それぞれの分類ごとに具体例を示す。

I 出典に「誤」という記載がある漢字(十一字)

図版44

【潛】
18295

サン
潜(7-18293)の誤字。「正字通」漢、俗从林誤。

【泚】
17538

日ガ (集韻)牛河切
日カ (集韻)語可切

泚

小

川の名。今の**大渡河**。源は四川省理番縣の西北。上流を

図版45

大金川といひ、南流して小金川と合し、樂山縣に至り岷江に入る。「説文」泚、泚水、出蜀汶江徼外、東南入江、从水我聲。「水經、江水注」泚水、出徼外、逕汶江道、南至南安、入大渡水、又東入江。①泚(9-17530)の誤字。「説文通訓定聲」泚、按、此泚之誤字。

I は十一字あり、『大漢和』の「誤字」の約半数以上が出典に「誤」と記されていたことになる。『大漢和』の「誤字」も、「譌字」と同様、基本的には何らかの出典に「誤」とあればその漢字を「誤字」としていたものと思われる。

II 出典に「誤」という記載がない漢字(七字)

図版46

【功】
1876

コウ
功(9-2395)の誤字。「正字通」功、舉要、从刀作功。

【旌】
13658

セイ
シヤウ
(集韻)咨盈切
hī-ŋ ching.

図版47

旌

小

①はた。②折いた五采の羽毛を竿首に垂らした旗。天子が士氣を鼓舞するに用ひる。「説文」



(中略)

藉、不斷曰旌。③珪(7-20972)の誤字。

〔莊子、讓王〕延之以三旌之位。〔釋文〕三

旌、三公位也、司馬本作三珪。④姓。〔萬姓

統譜〕旌、見姓苑。

(以下略)

図版48

【脊】
29338

ド
脊(9-3329)の誤字。「字彙補」脊、脊字之誤。

図版46の例は、『正字通』が『古今韻会舉要』の字体を示して「从刀作功」としているのであるが、この記載からは「功」が「誤りである」とまでは判断し難い。図版47は⑦に「誤字」とあり、『莊子』と「釋文」が出典となっている。「釋文」とは『經典積文』のことと見られ、上海商務印書館の影印(二九三六)によると、その中の「三旌」の説明に「三公位也司馬本作三珪云謂諸侯之三鄉皆執珪也」(三九〇頁)とある。「釋文」

の引用にある「作三珪」は、『莊子』に書かれている「三旌」が本来は「三珪」と書かれるべきであることを示しているであろう。図版48では出典に「譌」と記されているが、これは恐らく『大漢和』の編者が「譌」を「誤」とほぼ同義と見なしたため、「誤字」とされているものと思われる。しかし、このような例はごくわずかであり、前述の通り、出典の記載に「譌」とあるものの大半は「譌字」とされている。次にⅠとⅡの字数をまとめた表を以下に示す。

表4 誤字の分類

分類	字数
Ⅰ	11
Ⅱ	7
計	18

Ⅰ	出典に「誤」という記載がある漢字
Ⅱ	出典に「誤」という記載がない漢字

以上のように、『大漢和』で「誤字」とされている字は出典に「誤」とある場合が大半であったが、出典に「誤」と記されていない場合でも、全て字体の誤りを指摘しているものであった。「譌字」においても、出典に「譌」と記されていない場合は、「く非」や「く誤」という言葉を用いて字体の誤りを指摘しているが、両者にはほとんど違いが感じられないため、『大漢和』における「譌字」と「誤字」はほぼ同義であったと見られる。

五―六 『大漢和』の「譌字」に関するまとめ

これまで見てきたように、『大漢和』の編集方針が主として何らかの出典に「譌」とあればその漢字を「譌字」とするというものであったことから、『大漢和』における「譌字」は明確な定義に基づいて記述されているとは考えにくい。

一方で、出典に「譌」という記載が無いにもかかわらず「譌字」とされている字も少数見られたが、出典の記載を分析した結果、「作く」「疑」「く誤」「く非」という記載が主に見られた。その中で「作く」「疑」に関しては必ずしも「譌字」と判断されるべき記述ではなかった。

「誤字」とされている字もあったが、『大漢和』ではほぼ「譌字」という用語と同様に使われていた。「誤字」は「譌字」に比べて圧倒的に少なかったが、それは「誤」と記されている出典が少なかったためと見られる。

六 譌字の捉え方

ここまで『大漢和』の「譌字」について考察してきたが、では、結局のところ「譌字」の概念はどのようなものであるのだろうか。最後に、『大漢和』に限らず、「譌字」という概念を一般的にどのように捉えるべきかについて、「誤字」との関係を踏まえながら考察する。

『大漢和』で「譌字」とされている漢字の中には、「争」「充」「冴」「没」「異」「衆」

のように現在の日本でごく一般的に使用されている字体も含まれていた。以下にその五字の『大漢和』の記載を示す。

図版49 争 19663の譌字。(中華大典)争、争譌字。

争 19663
 曰サウ (集韻)齒莖切
 シヤウ 止上 Cheng'
 曰サウ (集韻)側進切
 シヤウ 敵

争 小 ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 争、引也。从受、厂。(段注)凡言争者、皆謂引之使歸於己、從受、猶從手、厂、批也、批、引也。(一切經音義、廿四)争、說文、彼此競引物也。㊦くらべきそふ。はりあふ。抗敵する。(集韻)争、競也。(書、大禹謨)天下莫與汝争能。(孝經、紀孝行章)在醜不争。(注)争、競也。㊧決する。勝敗をきめる。(禮、曲禮上)在醜夷不爭。(疏)喜争、勝負。(呂覽、順民)以與吳王争、一旦之死。(注)争、決。㊨うったへる。(玉篇)争、訟也。㊩あげつらふ。論ずる。對辯する。(正字通)争、辯也。(左氏、隱、十二)滕侯薛侯、來朝、争長。

図版50

(以下略)

図版51

充 1345
 シユウ 充(1344)の譌字。(正字通)充、充字之譌。

充 1344
 シユウ (集韻)昌嵩切 廩
 シユ ㄩㄨㄣˋ ch'ung
 𧶏 シユウ

図版52

充 小 ● やしなふ。肥える。年たける。たけが高い。(説文)充、長也、高也、从儿育省聲。(方言、十三)充、養也。(儀禮、特牲饋食禮)宗人視牲、告充。(注)充、猶肥也。● みちる。みたす。完全。(廣韻)充、滿也。(增韻)充、實之也。(周禮、天官、大府)以充府庫。(注)充、猶足。(左氏、襄、三十一)寇盜充斥。(注)充、滿也。(穀梁、莊、二十五)言充其陽也。

(以下略)

図版 53

【𠵼】

1615

コ 𠵼(2-1613)の譌字。

【𠵼】

1613

ゴ コ (集韻)胡故切
𠵼

図版 54

●さむい。非常に寒い。(玉篇)𠵼、寒也。
 ●こほる。(廣韻)𠵼、寒凝也。(莊子、齊物論)河漢𠵼而不能寒。(釋文)𠵼、向云、凍也。
 ●ふさぐ。ふさがる。とちる。通じて涸(7-1760)に作る。(韻會)𠵼、固塞也、通作涸。(左氏、昭、四)固陰𠵼寒。(注)𠵼、閉也。●かたい。(左思、魏都賦)下冰室而𠵼冥。(注)劉曰、𠵼、堅也。
 ●通じて涸(2-1659)に作る。(正韻)𠵼、通作涸。●誤つて涸(6-17194)に作る。(正字通)𠵼、涸字之譌。𠵼さえる。澄みわたる。

(以下略)

図版 55

【没】

17233

ホツ 没(6-17204)の譌字。(正字通)没、譌从没。

沒 17204

日 ボツ (集韻)莫勃切
モチ
□、□、□、□ me:z
目 マイ (集韻)莫佩切
マバ (集韻)母果切

韻モツ

図版 56

④ 小 日 ㊦ しづむ。もと没(6-17548)
 兼 に作る。(正字通)没、本作没。④
 没、湛也、从水没聲。(段注)湛、各本作
 沈、沒人以今字改之也、今正、没者全
 入於水。(集韻)没、說文、沈也。㊦ おぼれ
 る。おぼらす。(魏志、杜畿傳)於孟津
 試船、遂至覆没。㊧ 埋める。かくれる。
 かくす。(北史、崔濟傳)乍没乍出。(李華、
 弔古戰場文)積雪没脛。㊨ をはる。㊩
 つきる。なくなる。つくす。(說文、没、段
 注)没者全入於水、故引伸之義訓盡。
 (詩、小雅、漸漸之石)曷其没矣。(傳)没、盡
 也。(論語、鄉黨)没階趨進。(集解)孔安國
 曰、没、盡也。㊰ をへる。をはる。(小爾雅、廣
 言)没、終也。(禮、雜記下)如未没喪。(注)
 没、竟也。㊱ ほろびる。ほろぼす。(小爾雅、
 廣詁)没、滅也。㊲ 死ぬ。致(6-16335)に通
 ず。(說文通訓定聲)没、段借爲致。(易、繫
 辭)没、滅也。 (以下略)

図版 57

異 21854

イ 異(7-21866)の譌字。(篇海)
 異、或作異譌。

異 21866

イ (集韻)羊史切

眞

図版 58

異 小 ㊦ ことなる。ことなり。㊧ ちが
 兼 ぶ。同じくない。(正字通)異、
 殊也。(孟子、梁惠王上)殺人以梃與刃、
 有以異乎。(墨子、經、上)異、二體不
 合不類。(史記、淮陰侯傳論贊)其志與衆
 異。㊨ まちがひ。(正字通)異、違也。(歐
 陽) (以下略)

図版 59

【衆】

33981

シユウ

図版 9-12321) の譌字。「正字通」衆、眾字之譌。

【眾】

23321

シユウ

【集韻】之仲切

圖

シユ

ㄏㄨㄥˋ chūng

シユウ

【集韻】之戎切

陳

シユ

衆

小

𠂇

多。从目，眾意。①多。〔説文〕眾，多也。

図版 60

禮、地官、族師、疏」七口以上曰眾。(國語、周語上)人三爲眾。③多くの物。(淮南子、本經訓)對酌萬殊、旁薄眾宜。(注)眾、物。④多くの事。(禮、仲尼燕居)凡眾之動得其宜。⑤疏。眾、謂萬事也。⑥土地。(易、說卦)坤爲眾。(疏)爲眾、取其地載、物非一也。⑦民。庶民。(書、湯誓)格爾眾庶、悉聽朕言。(後漢書、楊終傳)安土重居、謂之眾庶。(說苑、修文)安故重遷、謂之眾庶。⑧けらい。百官。(禮、曲禮下)

(以下略)

図版 49、60 の通り、「争」「充」「冚」「没」「異」「衆」は『大漢和』において「譌字」とされている。これらの五字はいずれも現代の日本で使用されていることから、前述の通り、『大漢和』で「譌字」とされている字をさまざま「誤字」と考えるのは適切でない。それでは、「譌字」とは一体どのように捉えるべき概念であろうか。『漢字源』(学習研究社、一九八八)の「衆」の解字には以下のようにある。(傍線は引用者による。)

会意。「日(太陽)十人が三人(おおくの人)」で、太陽のもとでおおくの人が集団労働をしているさま。上部は、のちに誤って血と書かれた。

「上部は、のちに誤って血と書かれた。」とあるところから、「衆」は書き誤りによって出来た字体であると説明されていることになる。これまで見てきた通り、『大漢和』がこの字体を「譌字」としているのは『正字通』の記載を取り入れたためと見られるが、仮に『正字通』が『漢字源』の解字と同様の字源解釈をしたことから「衆」を「譌字」としたとすれば、そこでの「譌字」とは、篆書以前の文字に照らし合わせた場合に、本来の字源にそぐわない字体を「譌字」と呼んでいることになる。

しかし、他の資料においても全てそのような判断基準のもとに「譌字」とされたとは考え難く、むしろ単純に「正しい字体として認められない字体」と判断されたのが「譌字」であったと見られる。すると、その「正しい字体」とは何かというところが問題となり、その基準が一定でないことから、「衆」の字体が「譌字」であるか否かという問題が生じるものと考えられる。つまり、「譌字」とは、「正字」という概念と同様、時代や地域、資料等によって異なってくるものなのであり、『正字通』といった個別の一資料において「譌字」、すなわち「正しくない字体」とされた判断を、その他の時代や資料等にそのままではめるべきではないということである。その証拠に、『字彙』や『大

広益会玉篇』など、その他の中国の古字書において、「衆」は必ずしも「譌字」とされていない(図版61・62)、『大漢和』で「衆」が「譌字」とされているのはその根拠を『正字通』に求めたからであるが、別の言い方をすれば、その判断基準を近現代日本の漢字字体に置かなかつたために、「衆」を「譌字」としているということもできる。

・「字彙」

図版61 衆之仲切終去聲多也○又陟降切音中易解任得衆(行)
也三略賞祿有功通事于衆淮南子九疑之南陸事(改)

寮而水車衆於是人民被髮文身以像鱗蟲又爾雅濼管衆郭璞曰葉員銳莖毛黑布地冬不死一名貫渠廣雅云貫節又姓左傳有衆仲衆父以字爲氏○又叶諸良切音章易明夷象君子以蒞衆用晦而明明音甚道藏訶擄袂明貞館仰期無上皇(行)
北鈞唱羽人玉女衆賢衆○又叶諸仍切音征太玄減道(改)
減於艾無以澁衆也減黃貞臣道丁也○从𠂔三人爲衆(改)

〔字彙 字彙補〕上海辭書出版社影印、一九九一)

・「大広益会玉篇」

図版62 衆之仲切多也

〔大広益会玉篇〕中華書局出版影印、一九八七)

また、「譌字」は、「正字」や「俗字」といった「字体範疇」とも異なる概念であったものと考えられる。「誤字」という用語がそうであるように、「譌字」は字体範疇ではないため、概念的には必ずしも一つの字体に定まるものではないものと考えられる。すなわち「譌字」は、「正字」や「俗字」といった「字体範疇」を示す概念ではなく、「誤っている」という「字体判断」を示す概念であったと考えられる。

その意味で「譌字」は「誤字」に近いが、しかし全く同義と言うこともできない。現代の我々が「誤字」という場合、そこには字体の誤りだけでなく、用字の誤りも含まれる。例えば「保険に加入する」と書くべきところを「保健に加入する」と別の同音異義語で書いてしまったような場合や、あるいは「保健に加入する」といった実際には存在しないような熟語で書いてしまった場合にも、現代の日本では「誤字」と呼ぶことができるが、少なくとも『大漢和』の「譌字」にはそのような用字の誤りを指摘した例が見られず、純粹に字体の誤りを指摘したものばかりであった。そこが、一般的な用語としての「誤字」と「譌字」の違いであると指摘できる。

すると「譌字」は、字体の誤りに限定した「誤字」の意味ということになるが、そこにはもう一つの意味が付随してくる。それは、異体字としての「譌字」の意味合いである。

先に、「譌字」は字体範疇ではなく字体判断であると述べたが、その一方で、『正字通』のような字書で「譌」とされている字は、当時までによく用いられた字体であったはずである。するとそれは、「譌」でありながら、異体字のような存在であったとも捉えることができる。筆者が「譌字」と「誤字」を同義と捉えるべきでないと主張するのはそ

ここにも理由があり、現代において「誤字」とされる字は決して異体字として認められないのに対し、「譌字」の中にはほぼ異体字のように扱われた字体もあったという点が大きく異なる。

以上の理由から、「譌字」と「誤字」は、それぞれ異なる概念として捉えられなければならぬと考えられる。

【注】

- 1 本研究では諸橋轍次『大漢和辞典』修訂第二版（大修館書店、一九八九～一九九〇）を使用した。
- 2 『日本国語大辞典』第二版（小学館、二〇〇〇～二〇〇二）。
- 3 『新版漢語林』第二版は、凡例で『康熙字典』で標準とされている字体を正字と定めており、「訛」の項で「譌」を「訛」の正字であると記載している。
- 4 『新明解現代漢和辞典』は、凡例で『説文解字』の小篆に基づく字体を本字と定めており、「訛」の項で「譌」を「訛」の本字と記載している。
- 5 補巻には「譌字（訛字）」と記載のある漢字が見られなかった。
- 6 元の熊忠の撰。黄公昭の『古今韻会』の大筋をまとめた韻書である。『古今韻会』は現存していない韻書である。（近藤春雄『中国学芸大事典』大修館書店、一九七八参考）
- 7 唐の陸德明の撰。周易、毛詩、周礼、儀礼、礼記、春秋左氏、論語、老子、莊子、爾雅等の諸経典に出てくる漢字や熟語の音義及び文字の異同を集めたもの。（近藤春雄『中国学芸大事典』大修館書店、一九七八参考）
- 8 『正字通』の「衆」（血部）にある）は『大漢和』に引用されている「眾字之譌」の後に、「別詳目部眾註舊本承譌附血部非」と続き、「血部」ではなく「目部」に入れるべき字であることを述べている。よって、基本的には『漢字源』と同様の見解をしているものと推測される。

参照資料・引用文献

- 『大広益会玉篇』中華書局出版影印、一九八七
- 『字彙 字彙補』上海辞書出版社影印、一九九一
- 『正字通』国際文化出版公司影印、一九九六
- 『淮南鴻烈集解』台湾商印書館影印、一九七四
- 『經典積文』上海商務印書館影印、一九三六
- 池田証壽（一九九九）「諸橋大漢和の譌字」『古辞書とJIS漢字』第一号
- 阿辻哲次（二〇〇一）「誤字のはなし」『月刊しにか』十五卷六号「特集漢字おもしろ探偵団」
- 小野芳彦（二〇一三）「異体字検証の試み―ユニコードの拡張でどの程度異体字が弁別できる ようになっているのか―」石塚晴道編『漢字字体史研究』勉誠出版

資料 『大漢和辞典』の「譌字」一覧

以下に示すものは『大漢和』で確認された「譌字」の一覧である。「譌字」の「文字番号」を次の分類に分けて記した。

- A 出典に「譌」という記載がある漢字
- B 出典に「譌」という記載がない漢字
 - b 1 「誤」という記載がある譌字
 - b 2 「く非」という記載がある譌字
 - b 3 「作く」という記載がある譌字
 - b 4 「疑」という記載がある譌字
 - b 5 その他
- C 出典なし

A 出典に「譌」という記載がある漢字 (九一六字)

中¹・72^中の譌字〔正字通〕／リ¹・114^リの譌字〔字彙補〕〔康熙字典〕／久¹・119^久の譌字〔正字通〕／訃¹・203^訃の譌字〔正字通〕／争¹・236^争の譌字〔中華大字典〕／亘¹・270^亘の□の譌字〔康熙字典〕／喜¹・338^喜の譌字〔康熙字典〕／喜¹・339^喜の譌字〔康熙字典〕／仆¹・392^仆の譌字〔康熙字典〕／任¹・417^任の譌字〔正字通〕／尫¹・423^尫の譌字〔正字通〕／今¹・455^今の譌字〔康熙字典〕／符¹・612^符の譌字〔字彙〕／侏¹・622^侏の譌字〔康熙字典〕／侏¹・815^侏の譌字〔康熙字典〕／倭¹・741^倭の譌字〔正字通〕／倭¹・813^倭の譌字〔康熙字典〕／倭¹・815^倭の譌字〔康熙字典〕／愕¹・854^愕の譌字〔正字通〕／堵¹・856^堵の譌字〔正字通〕／像¹・880^像の譌字〔字彙〕〔正字通〕／鹵¹・918^鹵の譌字〔康熙字典〕／僂¹・978^僂の譌字〔戴震疏證〕／倅¹・993^倅の譌字〔康熙字典〕／僂¹・1148^僂の譌字〔康熙字典〕／開¹・1150^開の譌字〔康熙字典〕／僂¹・1193^僂の譌字／價¹・1253^價の譌字／價¹・1259^價の譌字〔康熙字典〕／僂¹・1289^僂の譌字〔康熙字典〕／充¹・1345^充の譌字〔正字通〕

頁²・1466^頁の譌字〔字彙補〕〔康熙字典〕／置²・1598^置の譌字〔正字通〕／血²・1638^血の譌字〔正字通〕／滅²・1685^滅の譌字〔正字通〕／劓²・1873^劓の譌字〔康熙字典〕／刖²・1874^刖の譌字〔康熙字典〕／冂²・1875^冂の譌字〔康熙字典〕／糾²・1946^糾の譌字〔正字通〕／制²・1961^制の譌字〔管子、霸言〕〔纂註〕／制²・1962^制の譌字〔管子〕〔纂註〕／利²・2053^利の譌字〔康熙字典〕／制²・2057^制の譌字〔正字通〕／剡²・2103^剡の譌字〔字彙補〕／剡²・2140^剡の譌字〔康熙字典〕／剡²・2210^剡の譌字〔康熙字典〕／剡²・2267^剡の譌字〔正字通〕／劓²・2292^劓の譌字〔字彙補〕／劓²・2325^劓の譌字〔康熙字典〕／劓²・2344^劓の譌字〔康熙字典〕／劓²・2392^劓の譌字〔海篇〕／勢²・2443^勢の譌字〔廣韻〕〔正字通〕／劓²・2556^劓の譌字〔正字通〕／卒²・2701^卒の譌字〔篇海〕／幹²・2766^幹の譌字〔康熙字典〕／幹²・2768^幹の譌字〔康熙字典〕／友²・2783^友の譌字〔康熙字典〕／舛²・2807^舛の譌字〔字彙補〕／印²・2845^印の譌字〔正字通〕／卷²・2864^卷の譌字〔正字通〕／酉²・2951^酉の譌字〔正字通〕／屮²・3014^屮の譌字〔字彙補〕／屮²・3023^屮の譌字〔正字通〕／美²・3105^美の譌字〔康熙字典〕／友²・3132^友

友の譌字〔正字通〕／**𦉳**2-3162**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**2-3194**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**2-3286
 昏の譌字〔正字通〕／**𦉳**2-3339**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**2-3432**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**2-3467
 𦉳の譌字〔正字通〕／**𦉳**2-3515**𦉳**の譌字〔字彙補〕／**𦉳**2-3521**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**2-3599
 昏の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**2-3624**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**2-3625**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**
 2-3649**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**2-3698**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**2-3972**𦉳**の譌字〔字彙〕
 ／**𦉳**2-4103**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**2-4140**𦉳**の譌字〔字彙〕／**𦉳**2-4159**𦉳**の譌字〔康熙字典〕
 ／**𦉳**2-4302**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**2-4320**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**2-4430**𦉳**の譌字〔正字通〕
 ／**𦉳**3-4962**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**3-5138**𦉳**の譌字〔字彙補〕〔康熙字典〕／**𦉳**3-5141**𦉳**
 𦉳〔正字通〕〔康熙字典〕／**𦉳**3-5298**𦉳**の譌字〔說史方輿紀要〕／**𦉳**3-5383**𦉳**の譌字〔正
 字通〕／**𦉳**3-5384**𦉳**の譌字／**𦉳**3-5806**𦉳**の簡文の譌字〔正字通〕／**𦉳**3-5848**𦉳**の譌字〔正
 字通〕／**𦉳**3-5902**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**3-6001**𦉳**の譌字〔字彙補〕／**𦉳**3-6003**𦉳**の譌
 字〔正字通〕／**𦉳**3-6008**𦉳**の譌字〔字彙補〕／**𦉳**3-6113**𦉳**の譌字〔字彙補〕／**𦉳**3-6379**𦉳**
 𦉳〔正字通〕／**𦉳**3-6496**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**3-7201**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**3-7260
 𦉳の訛字〔正字通〕／**𦉳**3-7273**𦉳**の譌字〔字彙補〕／**𦉳**3-7284**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**3-7287
𦉳の譌字〔正字通〕／**𦉳**3-7326**𦉳**の譌字〔正字通〕
𦉳4-7453**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-7467**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-7497**𦉳**の譌字〔正字通〕
 ／**𦉳**4-7511**𦉳**の譌字〔集韻〕〔正字通〕／**𦉳**4-7575**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-7615**𦉳**の譌字
 〔正字通〕／**𦉳**4-7616**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-7810**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-7852**𦉳**の
 譌字〔正字通〕／**𦉳**4-7931**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-8045**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-8233**𦉳**
 𦉳の譌字〔字彙補〕／**𦉳**4-8339**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-8358**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-8388
𦉳の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-8406**𦉳**の譌字〔字彙〕〔正字通〕／**𦉳**4-8580**𦉳**の譌字〔正字通〕
 ／**𦉳**4-8963**𦉳**の譌字〔字彙補〕／**𦉳**4-9008**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**4-9011**𦉳**の譌字〔正
 字通〕／**𦉳**4-9071**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**4-9160**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**4-9232**𦉳**の
 譌字〔正字通〕／**𦉳**4-9346**𦉳**の譌字〔字彙補〕／**𦉳**4-9448**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**4-9498
𦉳の譌字〔字彙補〕／**𦉳**4-9530**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**4-9568**𦉳**の譌字〔字彙補〕／**𦉳**4-9617
𦉳の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**4-9640**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-9714**𦉳**の譌字〔字彙補〕／**𦉳**4-9755
𦉳の譌字〔字彙〕〔康熙字典〕／**𦉳**4-9798**𦉳**の譌字〔字彙補〕／**𦉳**4-9857**𦉳**の譌字〔康熙字典〕
 𦉳／**𦉳**4-9896**𦉳**の譌字〔集韻考正〕／**𦉳**4-9977**𦉳**の譌字〔字彙補〕／**𦉳**4-10080**𦉳**の譌字
 〔字彙補〕／**𦉳**4-10195**𦉳**の譌字〔龍龕手鑑〕／**𦉳**4-10411**𦉳**の譌字〔集韻考正〕／**𦉳**4-10611
 𦉳の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-10687**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-10781**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**
 4-10796**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-10799**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-10817**𦉳**の譌字〔康熙字典〕
 𦉳／**𦉳**4-10829**𦉳**の譌字〔中華大字典〕／**𦉳**4-10922**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**4-11173**𦉳**
 𦉳の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-11398**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／**𦉳**4-11404**𦉳**の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-11491
𦉳の譌字〔正字通〕／**𦉳**4-11523**𦉳**の譌字〔字彙補〕
𦉳5-11558**𦉳**の譌字〔字彙〕／**𦉳**5-11670**𦉳**の譌字〔龍龕手鑑〕／**𦉳**5-11706**𦉳**の譌字〔正字

／屨5-11722 屨の譌字〔正字通〕／屨5-11740 履の譌字〔正字通〕／扌5-11786 扌の譌字〔字彙補〕／扌5-11791 扌の譌字〔正字通〕／扌5-11829 扌の譌字〔正字通〕／扌5-11831 扌の譌字〔正字通〕／扌5-11859 狂の譌字〔正字通〕／扌5-11862 忮の譌字〔正字通〕／扌5-11870 扌の譌字〔正字通〕／扌5-11934 忮の譌字〔正字通〕／扌5-11935 枷の譌字〔康熙字典〕／扌5-11943 埵・圻の譌字〔集韻〕〔易・解・百果草木皆甲圻、校勘記〕〔詩・大雅・生民〕〔校勘記〕／扌5-11997 扌の譌字〔正字通〕／扌5-12085 扌の譌字〔康熙字典〕／扌5-12097 抄の譌字〔正字通〕／扌5-12108 扌の譌字〔正字通〕／扌5-12138 扌の譌字〔正字通〕／扌5-12377 綬の譌字〔正字通〕／扌5-12412 扌の譌字〔康熙字典〕／扌5-12423 扌の譌字〔康熙字典〕／扌5-12426 扌の譌字〔康熙字典〕／扌5-12427 扌の譌字〔字彙補〕／扌5-12428 扌の譌字〔康熙字典〕／扌5-12429 扌の譌字〔康熙字典〕／扌5-12430 扌の譌字〔康熙字典〕／扌5-12499 扌の譌字〔正字通〕／扌5-12541 扌の譌字〔康熙字典〕／扌5-12543 扌の譌字〔康熙字典〕／扌5-12681 扌の譌字〔正字通〕／扌5-12792 扌の譌字〔正字通〕／扌5-12945 扌の譌字〔康熙字典〕／扌5-12972 扌の譌字〔康熙字典〕／扌5-12975 扌の譌字〔五音篇海〕／扌5-13071 奥の譌字〔正字通〕／扌5-13080 故の譌字〔正字通〕／扌5-13084 故の譌字〔正字通〕／扌5-13103 敎の譌字〔正字通〕／扌5-13136 攸の譌字〔正字通〕／扌5-13138 攸の譌字〔正字通〕／扌5-13236 敎の譌字〔說文長箋〕／扌5-13252 敎の譌字〔正字通〕／扌5-13299 嫪の譌字〔正字通〕／扌5-13301 敎の譌字〔正字通〕／扌5-13352 整の譌字〔康熙字典〕／扌5-13413 敎の譌字〔正字通〕／扌5-13414 敎の譌字〔正字通〕／扌5-13437 變の譌字〔字彙補〕／扌5-13448 敎の譌字〔中華大字典〕／扌5-13463 敎の譌字〔康熙字典〕／扌5-13465 施の譌字〔康熙字典〕／扌5-13560 斷の譌字〔正字通〕／扌5-13583 斷の譌字〔中華大字典〕／扌5-13630 旆の譌字〔五經文字〕／扌5-13876 門の譌字〔康熙字典〕／扌5-13979 置の譌字〔正字通〕／扌5-14053 累の譌字〔正字通〕／扌5-14116 曉の譌字〔正字通〕／扌5-14483 杓の譌字〔龍龕手鑑〕／扌5-14571 杓の譌字〔康熙字典〕／扌5-14775 樺の譌字〔正字通〕／扌5-14791 揆の譌字〔康熙字典〕／扌5-14943 契の譌字〔字彙〕／扌5-15032 母の譌字〔正字通〕／扌5-15162 挾の譌字〔正字通〕／扌5-15223 渠の譌字〔正字通〕／扌5-15237 模の譌字〔正字通〕／扌5-15239 復の譌字〔正字通〕／扌5-15434 樺の譌字〔正字通〕／扌5-15477 棄の譌字〔康熙字典〕／扌5-15593 搭の譌字〔正字通〕／扌5-15631 樺の譌字〔正字通〕／扌5-15729 櫛の譌字〔正字通〕／扌5-15913 櫛の譌字〔字彙補〕／扌5-15945 櫛の譌字〔正字通〕／扌5-15983 櫛の譌字〔五音篇海〕〔正字通〕／扌5-15954 櫛の譌字〔五音篇海〕〔康熙字典〕／扌5-16288 止の譌字〔正字通〕／扌5-16372 歹の譌字〔正字通〕／扌5-16395 処の譌字〔康熙字典〕／扌5-16434 殞の譌字〔篇韻〕／扌5-16564 殞の譌字〔字彙補〕／扌5-16636 設の譌字〔正字通〕／扌5-16652 設の譌字〔正字通〕／扌5-16657 勢の譌字〔康熙字典〕／扌5-16666 數の譌字〔正字通〕／扌5-16680 數の譌字〔集韻・打或作考・考正〕／扌5-16687 敎の譌字〔集韻考正〕／扌5-16693 敎の譌字〔字彙補〕／扌5-16699 敎の譌字〔康熙字典〕／扌5-16710 敎の譌字〔正字通〕／扌5-16747 勞の譌字〔正字通〕／扌5-16804 耗の譌字〔康熙字典〕／扌5-16805 筆の譌字〔康熙字典〕／扌5-16846 毳の譌字〔正字通〕／扌5-16878 攬

の譌字〔康熙字典〕／𧈧6-16885 **𧈧** の譌字〔正字通〕／𧈧6-16898 **𧈧** の譌字〔正字通〕／𧈧6-16904 **𧈧** の譌字〔字彙補〕／𧈧6-16935 **𧈧** の譌字〔康熙字典〕／𧈧6-16977 **𧈧** の譌字〔字彙補〕／𧈧6-17018 **𧈧** の譌字〔集韻〕〔正字通〕／𧈧6-17194 **𧈧** の譌字〔正字通〕／𧈧6-17195 **𧈧** の譌字〔正字通〕／𧈧6-17226 **𧈧** の譌字〔荆溪疏〕／𧈧6-17227 **𧈧** の譌字〔字彙補〕／𧈧6-17439 **𧈧** の譌字〔水經、清水注、西南涇水入焉、紀昀等校〕／𧈧6-17498 **𧈧** の譌字〔正字通〕
洄 7-17737 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-17739 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-17915 **洄** の譌字〔中華大字典〕／**洄** 7-17995 **洄** の譌字〔字彙〕／**洄** 7-18142 **洄** の譌字〔康熙字典〕／**洄** 7-18186 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18203 **洄** の譌字〔水經、泗水注〕〔紀昀等校〕／**洄** 7-18204 **洄** の譌字〔中華大字典〕／**洄** 7-18257 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18296 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18301 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18367 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-18415 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18420 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18518 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18534 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18541 **洄** の譌字〔集韻考正〕／**洄** 7-18577 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18581 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18634 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18680 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-18732 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-18782 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18808 **洄** の譌字〔康熙字典〕／**洄** 7-18935 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-18977 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-19036 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-19164 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-19199 **洄** の譌字〔字彙〕／**洄** 7-19427 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-19546 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-19598 **洄** の譌字〔康熙字典〕／**洄** 7-19600 **洄** の譌字〔字彙〕／**洄** 7-19718 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-19743 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-19769 **洄** の譌字〔字彙〕／**洄** 7-19775 **洄** の譌字〔康熙字典〕／**洄** 7-19893 **洄** の譌字〔康熙字典〕／**洄** 7-19962 **洄** の譌字〔篇海類編〕／**洄** 7-19978 **洄** の譌字〔字彙〕／**洄** 7-19996 **洄** の譌字〔搜真玉鏡〕／**洄** 7-20043 **洄** の譌字〔龍龕手鑑〕／**洄** 7-20044 **洄** の譌字〔中華大字典〕／**洄** 7-20080 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-20117 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-20566 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-20624 **洄** の譌字〔字彙〕／**洄** 7-20631 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-20678 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-20715 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-20881 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-20938 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-21089 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-21214 **洄** の譌字〔康熙字典〕／**洄** 7-21267 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-21323 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-21332 **洄** の譌字〔康熙字典〕／**洄** 7-21514 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-21618 **洄** の譌字〔康熙字典〕／**洄** 7-21708 **洄** の譌字〔字彙〕〔正字通〕／**洄** 7-21750 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-21779 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-21812 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-21855 **洄** の譌字〔篇海〕／**洄** 7-21937 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-22043 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-22048 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-22177 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-22215 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-22216 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-22267 **洄** の譌字〔字彙〕／**洄** 7-22311 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-22349 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-22366 **洄** の譌字〔康熙字典〕／**洄** 7-22375 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-22474 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-22477 **洄** の譌字〔康熙字典〕／**洄** 7-22375 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-22537 **洄** の譌字〔字彙補〕／**洄** 7-22578 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-22667 **洄** の譌字〔正字通〕／**洄** 7-22670 **洄** の譌字〔康熙字典〕
臭 8-22696 **臭** の譌字〔正字通〕／**臭** 8-22775 **臭** の譌字〔正字通〕／**臭** 8-22800 **臭** の譌字〔正字通〕／**臭** 8-22860 **臭** の譌字〔正字通〕／**臭** 8-22885 **臭** の譌字〔康熙字典〕／**臭** 8-22937 **臭** の譌

字〔正字通〕／𦉳8-22942 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23046 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23067
 距の譌字〔字彙補〕／𦉳8-23082 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23095 **𦉳**の譌字〔中華大字典〕
 ／𦉳8-23119 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23130 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23148 **𦉳**の譌字〔正
 字通〕／𦉳8-23149 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23150 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23247 **𦉳**の譌
 字〔正字通〕／𦉳8-23293 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23294 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23300
𦉳の譌字〔正字通〕／𦉳8-23309 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23357 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳
 8-23365 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23401 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-23507 **𦉳**の譌字〔正字通〕
 ／𦉳8-23509 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-23521 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-23695 **𦉳**の譌字
 〔正字通〕／𦉳8-23700 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23727 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23732 **𦉳**
 の譌字〔正字通〕／𦉳8-23733 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23767 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-23945
𦉳の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-23977 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-24201 **𦉳**の譌字〔正字通〕
 ／𦉳8-24458 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-24510 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-24718 **𦉳**の譌字〔正
 字通〕／𦉳8-24729 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-24755 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-24757 **𦉳**の
 譌字〔集韻〕〔正字通〕／𦉳8-24768 **𦉳**の譌字〔辭海〕／𦉳8-24862 **𦉳**の譌字〔龍龕手鑑〕／𦉳
 8-24974 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-25015 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-25024 **𦉳**の譌字〔正字通〕
 ／𦉳8-25151 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-25245 **𦉳**の譌字〔集韻〕〔正字通〕／𦉳8-25432 **𦉳**の
 譌字〔正字通〕／𦉳8-25534 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-25574 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-25596
𦉳の譌字〔正字通〕／𦉳8-25605 **𦉳**の譌字〔中華大字典〕／𦉳8-25624 **𦉳**の譌字〔正字通〕
 ／𦉳8-25703 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-25782 **𦉳**の譌字〔五音篇海〕／𦉳8-25850 **𦉳**の譌字〔正
 字通〕／𦉳8-25896 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-25918 **𦉳**の譌字〔篇海〕／𦉳8-26159 **𦉳**の譌字
 〔正字通〕／𦉳8-26166 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-26217 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-26261
𦉳の譌字〔正字通〕／𦉳8-26279 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-26295 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕
 ／𦉳8-26384 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-26489 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-26543 **𦉳**の譌字
 〔正字通〕／𦉳8-26585 **𦉳**・**𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-26605 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-26641
𦉳の譌字〔字彙補〕／𦉳8-26642 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-26808 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕
 ／𦉳8-26839 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-27164 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-27252 **𦉳**の譌字〔篇
 韻〕／𦉳8-27269 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-27283 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-27316 **𦉳**の譌字
 〔字彙補〕／𦉳8-27387 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-27388 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-27455
𦉳の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-27456 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-27532 **𦉳**の譌字〔正字通〕
 ／𦉳8-27624 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-27720 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-27721 **𦉳**の譌字
 〔康熙字典〕／𦉳8-27798 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-27800 **𦉳**の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-27802
𦉳の譌字〔康熙字典〕／𦉳8-27803 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-27850 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳
 8-27894 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-27898 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-27934 **𦉳**の譌字〔字彙補〕
 ／𦉳8-27946 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳8-27986 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-28029 **𦉳**の譌字〔正
 字通〕／𦉳8-28065 **𦉳**の譌字〔字彙補〕／𦉳8-28073 **𦉳**の譌字〔篇海〕／𦉳8-28098 **𦉳**の譌字
 〔正字通〕
 𦉳9-28148 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳9-28200 **𦉳**の譌字〔正字通〕／𦉳9-28202 **𦉳**の譌字〔正字

通)／罔9-28203 罔の譌字 [正字通]／罘9-28231 罘の譌字 [正字通]／罘9-28234 罘の譌字 [康熙字典]／罘9-28253 罘の譌字 [康熙字典]／罘9-28255 罘の譌字 [康熙字典]／罘9-28267 罘の譌字 [正字通]／罘9-28270 罘の譌字 [康熙字典]／罘9-28323 罘の譌字 [康熙字典]／罘9-28325 罘の譌字 [康熙字典]／罘9-28334 罘の譌字 [康熙字典]／罘9-28340 罘の譌字 [康熙字典]／羅9-28416 羅の譌字 [正字通]／并9-28427 并の譌字 [字彙補]／祥9-28445 祥の譌字 [正字通]／羸9-28558 羸の譌字 [篇海]／羸9-28570 羸の譌字 [康熙字典]／羸9-28608 羸の譌字 [字彙補]／翠9-28675 翠の譌字 [篇海]／翳9-28710 翳の譌字 [正字通]／翳9-28729 翳の譌字 [正字通]／翳9-28838 翳の譌字 [字彙補]／廌9-28874 廌の譌字 [康熙字典]／𪔐9-28891 𪔐の譌字 [康熙字典]／𪔐9-28892 𪔐の譌字 [康熙字典]／邛9-28901 邛の譌字 [中華大字典]／稭9-28964 稭の譌字 [康熙字典]／稭9-28972 稭の譌字 [康熙字典]／邛9-29004 邛の譌字 [字彙]／𪔑9-29006 聞の譌字 [龍龕手鑑]／𪔑9-29007 耶の譌字 [字彙補]／𪔑9-29101 𪔑の譌字 [正字通]／𪔑9-29171 𪔑の譌字 [川篇]／𪔑9-29174 𪔑の譌字 [正字通]／𪔑9-29188 𪔑の譌字 [康熙字典]／𪔑9-29486 𪔑の譌字 [字彙補]／𪔑9-29667 𪔑の譌字 [正字通]／𪔑9-29853 𪔑の譌字 [字彙補]／泉9-30114 泉の譌字 [正字通]／𪔑9-30181 𪔑の譌字 [正字通]／𪔑9-30182 𪔑の譌字 [中華大字典 補遺]／𪔑9-30187 𪔑の譌字 [正字通]／𪔑9-30199 𪔑の譌字 [字彙補]／𪔑9-30239 𪔑の譌字 [字彙補]／𪔑9-30256 𪔑の譌字 [中華大字典]／𪔑9-30293 𪔑の譌字 [廣雅疏證]／𪔑9-30295 𪔑の譌字 [正字通]／𪔑9-30296 𪔑の譌字 [正字通]／𪔑9-30301 𪔑の譌字 [正字通]／𪔑9-30340 𪔑の譌字 [正字通]／𪔑9-30343 𪔑の譌字 [正字通]／𪔑9-30344 𪔑の譌字 [中華大字典]／𪔑9-30367 𪔑の譌字 [龍龕手鑑]／𪔑9-30379 𪔑の譌字 [正字通]／𪔑9-30392 𪔑の譌字 [篇海類編]／𪔑9-30455 𪔑の譌字 [正字通]／𪔑9-30598 𪔑の譌字 [字彙補]／𪔑9-30622 𪔑の譌字 [玉篇]／𪔑9-30629 𪔑の譌字 [川篇]／𪔑9-30642 𪔑の譌字 [中華大字典]／并9-30687 并の譌字 [康熙字典]／苻9-30938 苻の譌字 [正字通]／苻9-30954 苻の譌字 [正字通]／苻9-31115 苻の譌字 [字彙補]／苻9-31120 苻の譌字 [康熙字典]／苻9-31124 苻の譌字 [康熙字典]／苻9-31185 苻の譌字 [康熙字典]／苻9-31301 苻の譌字 [字彙補]／苻9-31305 農の譌字 [康熙字典]／苻9-31319 苻の譌字 [廣雅疏證]／苻9-31326 苻の譌字 [字彙補]／苻9-31363 苻の譌字 [康熙字典]／苻9-31460 苻の譌字 [正字通]／苻9-31499 苻の譌字 [中華大字典]／苻9-31501 苻の譌字 [康熙字典]／苻9-31521 苻の譌字 [中華大字典]／苻9-31527 苻の譌字 [康熙字典]／苻9-31528 苻の譌字 [中華大字典]／苻9-31531 苻の譌字 [康熙字典]／苻9-31578 苻の譌字 [正字通]／苻9-31675 苻の譌字 [中華大字典]／苻9-31687 苻の譌字 [康熙字典補遺]／紗9-31692 紗の譌字 [康熙字典]／薇9-32091 薇の譌字 [正字通]／薇9-32177 薇の譌字 [康熙字典]／薇9-32211 薇の譌字 [正字通]／薇9-32225 薇の譌字 [正字通]／菓9-32411 菓の譌字 [正字通]／菓9-32412 菓の譌字 [正字通]／菓9-32450 菓の譌字 [康熙字典]／菓9-32472 菓の譌字 [康熙字典]／蒨9-32473 蒨の譌字 [字彙補]／蒨9-32489 蒨の譌字 [正字通]／菓9-32513 菓の譌字 [正字通]／菓9-32539 菓の譌字 [字彙補]／蒨9-32540 蒨の譌字 [康熙字典]／續9-32551 續の譌字 [正字通]／漢9-32570 漢の譌字 [字彙補]／慕9-32609 慕の譌字 [字彙補]／夔9-32647 夔の譌字 [五音篇海]／夔9-32666 夔の譌字 [集韻考正]／虜9-32729

庸の譌字〔廣雅疏證〕／歲9-32769 鷹の譌字〔正字通〕
虫10-32807 區の譌字〔川篇〕〔中華大字典〕／虬10-32837 虬の譌字〔正字通〕／蚘10-32912
蚘の譌字〔正字通〕／蚤10-32981 蚤の譌字〔廣雅疏證〕／虱10-33039 虱の譌字〔正字通〕
／蚤10-33317 蚤の譌字〔正字通〕／蜂10-33356 蜂の譌字〔龍龕手鑑〕／蝮10-33449 蝮の譌
字〔康熙字典〕／鼠10-33593 鼠の譌字〔正字通〕／蝮10-33692 蝮の譌字〔正字通〕／蝮10-33710
蝮の譌字〔康熙字典〕／履10-33713 履の譌字〔中華大字典〕／藟10-33725 藟の譌字〔字彙
補〕〔康熙字典〕／蟥10-33726 蟥の譌字〔康熙字典〕／蠅10-33727 蠅の譌字〔康熙字典〕／蠅
10-33834 蠅の譌字〔正字通〕／蠅10-33880 蠅の譌字〔康熙字典〕／蠅10-33913 蠅の譌字〔正
字通〕／蠅10-33929 蠅の譌字〔正字通〕／虬10-33968 虬の譌字〔正字通〕／衆10-33981 衆
の譌字〔正字通〕／啄10-33992 啄の譌字〔字彙補〕／衍10-34035 衍の譌字〔康熙字典〕／街
10-34058 街の譌字〔正字通〕／衡10-34081 衡の譌字〔正字通〕／袂10-34128 袂の譌字〔正
字通〕／衷10-34270 衷の譌字〔中華大字典〕／裝10-34334 裝の譌字〔中華大字典〕／襪
10-34403 襪の譌字〔字彙補〕／袷10-34405 袷の譌字〔中華大字典〕／襪10-34413 襪の譌字
〔中華大字典〕／袷10-34572 袷の譌字〔康熙字典〕／襪10-34610 襪の譌字〔康熙字典〕／襪
10-34679 襪の譌字〔正字通〕／襪10-34683 襪の譌字〔中華大字典〕／襪10-34757 襪の譌字
〔康熙字典〕／兜10-34808 兜の譌字〔正字通〕／規10-34821 規の譌字〔正字通〕／冠10-34823
冠の譌字〔中華大字典〕／規10-34844 規の譌字〔正字通〕／規10-34880 規の譌字〔正字通〕
／規10-34881 規の譌字〔字彙補〕／規10-34903 規の譌字〔正字通〕／躬10-35014 躬の譌字
〔正字通〕／躬10-35038 躬の譌字〔正字通〕／躬10-35071 躬の譌字〔篇海類編〕／躬10-35088
躬の譌字〔字彙補〕／脣10-35163 脣の譌字〔字彙補〕／脣10-35401 脣の譌字〔正字通〕／誅
10-35493 誅の譌字〔正字通〕／詔10-35494 詔の譌字〔正字通〕／定10-37369 定の譌字〔正
字通〕／誅10-35575 誅の譌字〔字彙補〕／誅10-35689 誅の譌字〔正字通〕／警10-35690 警
の譌字〔正字通〕／詔10-35691 詔の譌字〔字彙補〕／警10-35695 警の譌字〔正字通〕／誅
10-35813 誅の譌字〔正字通〕／誅10-35923 誅の譌字〔字彙補〕／警10-35988 警の譌字〔中
華大字典〕／讀10-36004 讀の譌字〔正字通〕／讀10-36118 讀の譌字〔正字通〕／讀10-36152
讀の譌字〔字彙〕／蒙10-36377 蒙の譌字〔正字通〕／寐10-36409 寐の譌字〔正字通〕／寐
10-36457 寐の譌字〔正字通〕／寐10-36582 寐の譌字〔字彙補〕／寐10-36641 寐の譌字〔字
彙補〕／寐10-36922 寐の譌字〔中華大字典〕／職10-36939 職の譌字〔篇韻〕〔康熙字典〕／賂
10-36954 賂の譌字〔康熙字典〕／賂10-36955 賂の譌字〔餘文〕／起10-37114 起の譌字〔五
音篇海〕／起10-37215 起の譌字〔龍龕手鑑〕／起10-37289 起の譌字〔正字通〕／起10-37328
起の譌字〔康熙字典〕／跋10-37422 跋の譌字〔篇海〕／跣10-37572 跣の譌字〔康熙字典〕
／跣10-37579 跣の譌字〔正字通〕／跋10-37631 跋の譌字〔正字通〕／寬10-37705 寬の譌字
〔正字通〕／跣10-37758 跣の譌字〔正字通〕／跣10-37851 跣の譌字〔正字通〕／跣10-38011
跣の譌字〔正字通〕／跣10-38064 跣の譌字〔正字通〕／彈10-38145 彈の譌字〔正字通〕／鞞
10-38201 鞞の譌字〔正字通〕／鞞10-38365 鞞の譌字〔正字通〕／鞞10-38377 鞞の譌字〔正
字通〕／鞞10-38450 鞞の譌字〔龍龕手鑑〕／鞞10-38477 鞞の譌字〔正字通〕／鞞10-38526 鞞
の譌字〔正字通〕／鞞10-38556 鞞の譌字〔字彙補〕／鞞10-38594 鞞の譌字〔正字通〕／辛

10-38631 辛の譌字〔康熙字典〕〔中華大字典〕／辦 10-38672 焮の譌字〔正字通〕／焮 10-38687 廬の譌字〔康熙字典〕
 込 11-38749 込の譌字〔正字通〕／世 11-38754 世の譌字〔正字通〕／込 11-38769 込の譌字〔正字通〕／込 11-38770 巡の譌字〔字彙補〕／道 11-38918 道の譌字〔字彙補〕／道 11-39110 道の譌字〔字彙補〕／道 11-39125 道の譌字〔正字通〕／邊 11-39214 邊の譌字〔正字通〕／邯 11-39334 邯の譌字〔正字通〕／邯 11-39425 邯の譌字〔正字通〕／邯 11-39669 邯の譌字〔字彙補〕／邯 11-39671 邯の譌字〔正字通〕／郟 11-39654 郟の譌字〔字彙補〕／郟 11-39669 郟の譌字〔字彙補〕／郟 11-39719 郟の譌字〔正字通〕／酈 11-39877 酈の譌字〔康熙字典〕／酈 11-39878 酈の譌字〔字彙補〕／酈 11-39881 酈の譌字〔字彙補〕／酈 11-39914 酈の譌字〔字彙補〕／酈 11-39915 酈の譌字〔康熙字典〕／酈 11-39991 酈の譌字〔正字通〕／酈 11-39995 酈の譌字〔正字通〕／鈇 11-40231 鈇の譌字〔正字通〕／鈇 11-40253 鈇の譌字〔中華大字典〕／鈇 11-40468 鈇の譌字〔正字通〕／鈇 11-40478 鈇の譌字〔正字通〕／錕 11-40487 錕の譌字〔字彙〕／鈇 11-40585 鈇の譌字〔正字通〕／錕 11-40586 錕の譌字〔字彙補〕／鈇 11-40618 鈇の譌字〔正字通〕／鈇 11-40749 鈇の譌字〔康熙字典〕／錕 11-40836 錕の譌字〔中華大字典〕／錕 11-40837 錕の譌字〔康熙字典〕／錕 11-40838 錕の譌字〔康熙字典〕／錕 11-40839 錕の譌字〔字彙補〕／錕 11-40852 錕の譌字〔康熙字典〕／錕 11-40896 錕の譌字〔正字通〕／錄 11-40910 錄の譌字〔方言〕十一「疏證」／鎗 11-40932 鎗の譌字〔正字通〕／鎗 11-40959 鎗の譌字〔康熙字典〕／鏤 11-41048 鏤の譌字〔正字通〕／鏤 11-41056 鏤の譌字〔康熙字典〕／鏤 11-41062 鏤の譌字〔正字通〕／鏚 11-41123 鏚の譌字〔正字通〕／鏚 11-41124 鏚の譌字〔正字通〕／鏚 11-41197 鏚の譌字〔集韻〕〔校正〕／閏 11-41264 閏の譌字〔正字通〕／閏 11-41266 閏の譌字〔正字通〕／閏 11-41333 閏の譌字〔字彙〕／閏 11-41351 閏の譌字〔龍龕手鑑〕／閏 11-41368 閏の譌字〔正字通〕／閏 11-41375 閏の譌字〔正字通〕／閏 11-41516 閏の譌字〔字彙〕／汝 11-41638 汝の譌字〔康熙字典〕／閏 11-41675 閏の譌字〔康熙字典〕／隨 11-41806 隨の譌字〔中華大字典〕／隨 11-41807 隨の譌字〔中華大字典〕／隨 11-41818 隨の譌字〔字彙〕／雅 11-41971 雅の譌字〔正字通〕／雅 11-41983 雅の譌字〔正字通〕／雅 11-42053 雅の譌字〔康熙字典〕／雅 11-42077 雅の譌字〔康熙字典〕／雅 11-42102 雅の譌字〔字彙〕／寔 12-42277 寔の譌字〔字彙補〕／寔 12-42285 寔の譌字〔正字通〕／寔 12-42392 寔の譌字〔正字通〕／寔 12-42606 寔の譌字〔王念孫『讀書雜誌』〕／寔 12-42610 寔の譌字〔康熙字典〕／緝 12-42613 緝の譌字〔正字通〕／緝 12-42621 緝の譌字〔字彙〕／緝 12-42663 緝の譌字〔康熙字典〕／緝 12-42806 緝の譌字〔正字通〕／緝 12-42951 緝の譌字〔字彙補〕／缺 12-43073 缺の譌字〔康熙字典〕／鞞 12-43152 鞞の譌字〔搜眞玉鏡〕／夔 12-43166 夔の譌字〔龍龕手鑑〕／鞞 12-43183 鞞の譌字〔中華大字典〕／鞞 12-43234 鞞の譌字〔正字通〕／鞞 12-43240 鞞の譌字〔五音篇海〕／鞞 12-43250 鞞の譌字〔集韻〕／鞞 12-43253 鞞の譌字〔正字通〕／鞞 12-43255 鞞の譌字〔正字通〕／鞞 12-43293 鞞の譌字〔康熙字典〕／鞞 12-43326 鞞の譌字〔康熙字典〕／頰 12-43354 頰の譌字〔字彙補〕／頰 12-43422 頰の譌字〔字彙補〕〔康熙字典〕／頰 12-43424 頰の譌字〔康熙字典〕／頰 12-43426 頰の譌字〔字彙補〕〔康熙字典〕／頰 12-43493 頰の譌字〔正字通〕／頰 12-43536 頰の譌字〔正字通〕／頰 12-43538 頰の譌字〔正字通〕／頰 12-43643

類の語字〔五音篇海〕／類12-43644類の語字〔字彙補〕／類12-43645類の語字〔康熙字典〕／類12-43692類の語字〔字彙補〕／類12-43715類の語字〔五字通〕／類12-43735類の語字〔五字通〕／類12-43739類の語字〔中華大字典〕／類12-43747類の語字〔五字通〕／類12-43840類の語字〔五字通〕〔字鑑〕〔楊慎外集〕／類12-43783類の語字〔五字通〕／類12-43818類の語字〔中華大字典〕／類12-43985類の語字〔字彙補〕／類12-44002類の語字〔五字通〕／奔12-44031奔の語字〔五字通〕／奔12-44186奔の語字〔五字通〕／錫12-44204錫の語字〔五字通〕／飭12-44212飭の語字〔五字通〕／饗12-44244饗の語字〔字彙補〕／餽12-44281餽の語字〔五字通〕／餉12-44310餉の語字〔五字通〕／饗12-44387饗の語字〔五字通〕／餽12-44438餽の語字〔五字通〕／餉12-44450餉の語字〔五字通〕／饗12-44640饗の語字〔五字通〕／餉12-44679餉の語字〔五字通〕／饗12-44689饗の語字〔字彙補〕／饗12-44693饗の語字〔字彙〕／饗12-44743饗の語字〔字彙補〕／饗12-44757饗の語字〔五字通〕／饗12-44765饗の語字〔五字通〕／饗12-44793饗の語字〔五字通〕／饗12-44942饗の語字〔字彙補〕／饗12-45042饗の語字〔五字通〕／饗12-45103饗の語字〔五字通〕／饗12-45107饗の語字〔五字通〕／饗12-45114饗の語字〔康熙字典〕／飭12-45131飭の語字〔五字通〕／散12-45133散の語字〔篇海〕／飭12-45172飭の語字〔五字通〕／饗12-45179饗の語字〔康熙字典〕／饗12-45180饗の語字〔康熙字典〕／饗12-45219饗の語字〔康熙字典〕／饗12-45310饗の語字〔字彙補〕／饗12-45320饗の語字〔五字通〕／饗12-45323饗の語字〔五音篇海〕／饗12-45389饗の語字〔康熙字典〕／饗12-45390饗の語字〔康熙字典〕／饗12-45393饗の語字〔五字通〕／饗12-45415饗の語字〔字彙補〕／饗12-45416饗の語字〔字彙補〕／饗12-4517饗の語字〔字彙補〕／饗12-45438饗の語字〔康熙字典〕／饗12-45448饗の語字〔五字通〕／饗12-45463饗の語字〔康熙字典〕／饗12-45518饗の語字〔五字通〕／饗12-45521饗の語字〔字彙補〕／饗12-45565饗の語字〔康熙字典〕／饗12-45630饗の語字〔字彙補〕／饗12-45678饗の語字〔字彙補〕／饗12-45688饗の語字〔五字通〕／饗12-45689饗の語字〔康熙字典〕／饗12-45698饗の語字〔字彙補〕／饗12-45708饗の語字〔五字通〕／饗12-45713饗の語字〔五字通〕／饗12-45744饗の語字〔字彙補〕／饗12-45750饗の語字／饗12-45867饗の語字〔五字通〕／饗12-45891饗の語字〔五字通〕／饗12-45894饗の語字〔五字通〕／饗12-45908饗の語字〔字彙補〕／饗12-45909饗の語字〔字彙補〕／饗12-45921饗の語字〔五字通〕／饗12-45942饗の語字〔五字通〕／饗12-45992饗の語字〔康熙字典〕／饗12-46001饗の語字〔字彙〕／饗12-46025饗の語字〔康熙字典〕／飭12-46057飭の語字〔五字通〕／饗12-46079饗の語字〔中華大字典〕／饗12-46081饗の語字〔字彙補〕／饗12-46111饗の語字〔康熙字典〕／饗12-46197饗の語字〔康熙字典〕／饗12-46198饗の語字〔康熙字典〕／饗12-46199饗の語字〔字彙補〕／饗12-46221饗の語字〔五字通〕／饗12-46248饗の語字〔康熙字典〕／饗12-46265饗の語字〔康熙字典〕／饗12-46275饗の語字〔字彙補〕／饗12-46335饗の語字〔五字通〕／饗12-46373饗の語字〔五字通〕／饗12-46442饗の語字〔字彙〕／饗12-46465饗の語字〔字彙補〕／饗12-46506饗の語字〔中華大字典〕／饗12-46508饗の語字〔篇海〕／饗12-46552饗の語字〔字彙補〕／饗12-46580饗の語字〔字彙補〕／饗12-46615饗の語字〔康熙字典〕／饗12-46681饗の語字〔康

照字典〕／駟12-46689 **逸**の譌字〔中華大字典〕／鴝12-46725 **鴝**の譌字〔廣雅疏證〕／鴝
 12-46914 **鴝**の譌字〔字彙補〕／鴝12-47033 **鴝**の譌字〔字彙補〕／鴝12-47224 **鴝**の譌字〔康
 熙字典〕／鴝12-47265 **鴝**の譌字〔中華大字典〕／鴝12-47271 **鴝**の譌字〔字彙〕／鴝12-47272
鴝の譌字〔字彙〕／鴝12-47301 **鴝**の譌字〔中華大字典〕／鴝12-47327 **鴝**の譌字〔篇海〕／鴝
 12-47378 **鴝**の譌字〔正字通〕／鴝12-47458 **鴝**の譌字〔正字通〕／鴝12-47460 **鴝**の譌字〔正
 字通〕／鴝12-47491 **鴝**の譌字〔正字通〕／鴝12-47506 **鴝**の譌字〔中華大字典〕／鴝12-47695
鴝の譌字〔字彙補〕／鴝12-47751 **對**の譌字〔字彙補〕／類12-47753 **類**の譌字〔正字通〕／類
 12-47765 **類**の譌字〔康熙字典〕／類12-47776 **類**の譌字〔康熙字典〕／類12-47795 **類**の譌字
 〔字彙補〕／類12-47861 **類**の譌字〔字彙補〕／廣12-47922 **廣**の譌字〔康熙字典〕／類12-47993
類の譌字〔正字通〕／類12-47998 **類**の譌字〔正字通〕／類12-48049 **類**の譌字〔字彙補〕／類
 12-48110 **類**の譌字〔中華大字典〕／類12-48111 **類**の譌字〔康熙字典〕／類12-48112 **類**の譌
 字〔康熙字典〕／類12-48140 **類**の譌字〔字彙〕／類12-48162 **類**の譌字〔字彙補〕／類12-48176
類の譌字〔正字通〕／類12-48184 **類**の譌字〔字彙補〕／類12-48230 **類**の譌字〔正字通〕／類
 12-48266 **類**の譌字〔正字通〕／類12-48275 **類**の譌字〔正字通〕／類12-48298 **類**の譌字〔中
 華大字典〕／類12-48344 **類**の譌字〔正字通〕／類12-48372 **類**の譌字〔康熙字典〕／類12-48395
類の譌字〔康熙字典〕／類12-48400 **類**の譌字〔正字通〕／類12-48404 **類**の譌字〔康熙字典〕
 類12-48437 **類**の譌字〔康熙字典〕／類12-48456 **類**の譌字〔正字通〕／類12-48507 **類**の譌
 字〔字彙〕／類12-48513 **類**の譌字〔集韻〕〔校正〕／類12-48515 **類**の譌字〔正字通〕／類12-48516
類の譌字〔康熙字典〕／類12-48588 **類**の譌字〔字彙補〕／類12-48593 **類**の譌字〔正字通〕
 類12-48635 **類**の譌字〔字彙補〕／類12-48641 **類**の譌字〔正字通〕／類12-48646 **類**の譌字
 〔正字通〕／類12-48690 **類**の譌字〔正字通〕／類12-48719 **類**の譌字〔正字通〕／類12-48771
類の譌字〔正字通〕／類12-48787 **類**の譌字〔正字通〕／類12-48801 **類**の譌字〔康熙字典〕
 類12-48809 **類**の譌字〔字彙補〕／類12-48815 **類**の譌字〔字彙補〕／類12-48865 **類**の譌字
 〔正字通〕

B 出典に「譌」という記載がない漢字 (四十一字)

b1 「へ誤」という記載がある譌字 (十字)

奠3-5961 **奠**の譌字〔集韻考正〕
 擾4-9151 **擾**の譌字〔説文通訓定聲〕
 鼓5-13090 **鼓**の譌字〔康熙字典〕
 突8-25480 **突**の譌字〔淮南子・墜形訓〕〔集解〕
 莽9-31121 **莽**の譌字〔康熙字典〕
 誼10-35568 **誼**の譌字〔中華大字典〕
 遁11-39060 **遁**の譌字〔集韻校正〕
 鞞12-42955 **鞞**の譌字〔中華大字典〕／鞞12-47053 **鞞**の譌字〔爾雅〕〔注〕〔集韻〕／鞞
 12-48133 **鞞**の譌字〔顏氏家訓・書證〕
 b2 「へ非」という記載がある譌字 (十一字)

儼1-1059儼の譌字〔正字通〕／焱1-1402焱の譌字〔字彙補〕〔中華大字典〕／人1-1416人
の譌字〔正字通〕

冤2-1551冤の譌字〔字彙〕〔正字通〕

𤑔3-6639𤑔の譌字〔說文〕

𤑔4-8753𤑔の譌字〔中華大字典〕

𤑔5-13324𤑔の譌字〔康熙字典〕

𤑔10-38214𤑔の譌字〔集韻〕〔正字通〕

鄉11-39581鄉の譌字〔中華大字典〕／鷺11-41880鷺の譌字〔正字通〕

𤑔12-42461𤑔の譌字〔正字通〕

b 3 「作〜」という記載がある譌字 (十三字)

況1-267況の譌字〔說文、況、段注〕

𤑔2-3296𤑔の譌字〔段注本說文〕〔段注〕

𤑔3-5683𤑔の譌字〔正字通〕

𤑔4-9209𤑔の譌字〔康熙字典〕／𤑔4-9348𤑔の譌字〔篇海類編〕〔康熙字典〕

𤑔8-25500𤑔の譌字〔韓非子、内儲說下、六微〕〔集解〕

𤑔6-15470𤑔の譌字〔王延壽、王孫賦〕〔古文苑注〕

潛7-18543潛の譌字〔康熙字典〕／𤑔7-21875𤑔の譌字〔中華大字典〕

𤑔9-30663𤑔の譌字〔淮南子、原動訓〕〔集解〕／𤑔9-29112𤑔の譌字〔中華大字典〕

𤑔12-45011𤑔の譌字〔列子、湯問、騫然而過、隨過隨合、口義〕

b 4 「疑」という記載がある譌字 (六字)

𤑔4-8262𤑔の譌字〔古文苑〕〔注〕

𤑔5-14372𤑔の譌字〔字彙補〕

𤑔8-25537𤑔の譌字〔呂覽、應言〕〔校正〕／𤑔8-27561𤑔・𤑔の譌字〔正字通〕

𤑔12-43465𤑔の譌字〔正字通〕／𤑔12-46947𤑔の譌字〔詩、豳風、七月、校勘記〕

b 5 その他 (三字)

𤑔2-2555𤑔の譌字〔正字通〕

𤑔4-9118𤑔の譌字〔中華大字典〕

𤑔8-23990𤑔の譌字〔正字通〕

C 出典なし (七字)

𤑔2-1615𤑔の譌字

𤑔4-11472𤑔の譌字

𤑔5-13347𤑔の譌字／𤑔5-13532𤑔の譌字

𤑔9-28206𤑔の譌字／𤑔9-31519𤑔の譌字〔字彙補〕

𤑔10-36943𤑔の譌字